

19 主婦の家事労働についての実態調査（第1報）

—仙台市に於ける食生活を中心とした考察—

宮城学院女子大 横山 シヅ
尚絅女学院短大 阿部 淑子
東北大教育 大泉 ふさ

1 最近の主婦の家事労働の形態が加工食品並びにサービス業の利用によって変化しつつある状態について東京都下に於て調査し報告したが、今回は仙台市に於て調査し、地域的な特徴の相違の把握を通して家事労働の変化の方向をみようとした。

2 昭和33年11月、仙台市内の四小学校に依頼して、それぞれの家庭の主婦について調査した。回答数は434世帯であった。

3 パン食は先般報告した東京都内の例に比較してその率は低く、又一週間のパン食回数も少い。然し知識階級の居住地域では東京に近い率を示した。従って炊飯の回数も一日二回が東京より多く表れた。そば、すしの出前をとる率も東京に比べ低率であったが商業地域ではむしろ高率を示した。罐詰の利用については差は認められなかったが、加工食品の利用率は仙台が著しく低く、又学歴の低い主婦の多く住む地域や、商業地域の家庭に多く利用される傾向が認められた。その他弁当の調装、外食の利用、買物の方法等を調査し考察した。その結果地方都市に住む主婦の家事労働の形態は、その地域的条件等により多少の差はあるが、大都市と同じ方向に変化しつつある事が認められた。